

皆さんお元気ですか。

2017年9月の出来事を綴っています。ご覧くださいませ。



9月2日、UCA大学の日本語教室で、「合気道と柔道の相違点」について、生徒たちに講義した。私は、日本語で説明して、ニカラグア人の日本語教師が通訳してくれた。最初に、合気道と柔道の理念、武道精神について説明したが、通訳の先生がどのようにスペイン語で通訳したらよいかわからなくて、結局聞いている生徒にも、反応がなかった。合気道では、袴をはくことを説明したら、生徒が初心者も最初から履くのですか。そして、その袴はどこで買えるのですか、と質問してきた。私は、初心者は履く必要はありません。返って稽古の邪魔になるので、有段者になってからだ、と回答した。そしたら、すこし残念そうな顔をしていた。後半は合気道の動画を見せた。合気道の動画は、今年の鏡開きのときの道主の演武をみせた。そして、柔道は、井上康生がオリンピック金メダルを取ったときの動画をみせた。これはよく分かったのか、両方の動画に感動していた。



9月3日、朝稽古の生徒と一緒に家の近くのメキシコ料理店で会食した。朝稽古の生徒の一人 (Osmin) が企画してくれて、4人の生徒たち (Osmin, Tom, Norman, Chris) が来てくれた。朝稽古では、主に杖形、組杖1~5、杖取りなどを指導した。OsminとTomはほぼ毎回稽古に参加してくれていたの、少しは身に付いたと思う。Osminは、過去に空手やテコンドーを習ったことがあるが、今は合気道が一番好きだと言っていた。Tomは、杖を学んで体の動きが理解できてうれしいと感想を述べた。Normanは、2代目JICAボランティアが離任した後のニカラグア合気道はどうなったかを説明してくれた。ボランティアが去った後、NormanがUCA大学で合気道を指導した。その後UCA大学では、UCAの学生にしか道場使用を許可しなかったの、生徒のうちのFulioやAnibalがUCCに新しい道場を設立した。また、Bruceが別の道場を作った。そして、3か所の道場をSusan Kinne先生が指導にいったとのこと。彼の話聞いて現在のニカラグア合気道事象が少し理解できるような気がした。



9月10日。任期最後のパーティーを我が家でやった。昇級審査の受審者とその受け、そして、UCA大学の護身術クラスの生徒も招待した。今回もカレーを作った。しかし、前回の教訓を生かして、ご飯ではなく、買ってきたパンとサラダにした。そして、デザートはアイスクリームとした。今回もカレーはみんなよく食べてくれて、殆んど残らなかった。そして、アイスクリームもみんなよく食べた。皆は、思い思いに色んなことを話していたが、私はスペイン語が理解できないので、皆の会話は分からなかった。しかし、道場長には、私の想いを伝えておきたかったので、通訳を通して言った。それは、日本公園にある道場は何としても守ってほしい。例え公園管理側が、使用を許可しないと云っても。日本公園に日本の武道場があることには、大きな意義がある。使用料を払ってでも続けて欲しいと念を押した。そしたら、道場長は了解した。もし問題があったら、日本領事官のIさんにお問い合わせするといった。それを聞いて私は少し安心した。



9月12日、U.C.C道場に見学に行った。私の活動も終わりホッとしていたが、一つ気になることがあった。それは、私がニカラグアに就任してU,C,C大学で合気道を教えていたときの道場アシスタントのSheylaさんが当道場（合気即生活）協会組織とは別れて、別の道場を設立して、指導していると聞いたからだ。彼女は私のもとで6か月ほど稽古し、1級に昇級した。道場を覗いたとき、3人の生徒を指導していた。私に会ったとき、Sheylaは驚いた様子だったが、丁寧に通訳を通して私にお礼を言ってきた。そして、彼女は、私から合気道を習ったと生徒に紹介していた。しかし、彼女の授業風景を見て愕然し、憤りを感じた。私が教えていない技を生徒に教えている。それも間違った技を。生徒たちはそれをまじめに稽古している。Sheylaは黒帯をしている。誰が彼女に初段を認可したのだろうか。私の指導は一体なんだったのだろうか。これがニカラグアの合気道だと滅滅した。合気道同士が協力しあって、大きな合気道組織を作ろうという気持ちなどない。すべてが、自分中心で、他人のことも将来のことも考えないのだと感じた。



9月15日、ロデオを見に行った。以前に合気道の生徒にニカラグアでロデオを見たいので、一緒に行こうと話していた。そしたら、その生徒がこの日の事を教えてくれた。しかし、教えてくれた本人は都合があり、行けなくなり、別の生徒と行くことになった。開演が3時ということだったが、会場が混むといけないと思って、1時ごろに会場（First Bull Dervy）について。VIP席に腰を下ろし、ズーッと待つこと3時間半、4時半ごろからやっと始まった。ロデオをするカーボーイが25名ほど出場するとのことだった。Bull（雄牛）がゲートに付けられ、その上にカーボーイが乗り、ゲートが開かれる。カーボーイが馬場にでた Bull に何秒乗ってられるかで、勝者が決る。殆どどのカーボーイは、数十秒で落ちてしまう。そして、Bull は、逃げようとして、観客の方のフェンスに突進していく。また、馬場内にいる調教師（？）は、Bull をゲートの方に誘導しようとするがうまくいかない。私が座ったVIP席は、ゲートの真後だったので、Bull に乗ったカーボーイをほとんど見る事が出来なかった。そこで、VIP側の反対方向に移動して観ることにした。Bull に乗った次のカーボーイが出てくまでに、30分以上かかった。余りにも進行が遅いので、途中で帰った。少しつまらなかった。

